

令和4年度第1回東京都地域医療対策協議会 委員意見（まとめ）

1 議事

東京都保健医療計画の進捗管理について

（御意見等）

○古賀会長

【人口10万対医師数について】

国や専門医機構による地域医師格差是正対策での医師育成数の漸減の中、特に少数医師を極める小児科・産科・産婦人科の医師数が増加していることは、各種の医師確保対策の効果の現れと評価したい。各種事業実績でも全体的に成果を上げており、達成状況は「A」で問題ない。

ただ、現場感覚として、特にこのコロナ禍においてはまだまだ医師全体数の不足感は払拭できない。今後の医師数については、単に「増やす」だけではなく、少子高齢化をはじめ働き方改革等の社会情勢を視野に、実態が伴った目標を立て、確保・維持対策を検討・実施していく必要がある。

【看護職員数について】

看護職員数を増やすという目標については「A」評価で問題はない。

人材確保・定着のための各種事業成果も、一時は低調だったコロナ禍での影響から復活してきており、充実してきている。年齢層別の適切な確保対策、綿密な定着促進・復職支援の計画など実態が伴い、特にナースプラザの復職支援対策の成果が目を引く。

高齢者社会の到来等に関しての訪問看護師の人材育成についても、多くの対策・支援がなされ、成果を上げている。今後さらに力を入れていく必要のある取組みと考える。

しかし医師同様、現場感覚として本当に看護師が増えているのか、という疑問は残る。人口対看護師数はまだ全国平均より低いし、これからの社会情勢の変化の中でも確実な医療が提供できる実効的な看護師確保が期待される。

○喜多委員

進捗状況は評価できますが、今後の厳しい高齢化と人口減への更なる取組が必要かと考えます。

○西村委員

計画期間における取組によって、保健医療を担う職種である医師および看護師の人材確保が、達成できていると評価します。